

### 第 51 回日本臨床心理学会大会（京都大会）へのお誘い

#### 臨床心理学の可能性と課題 一次の半世紀に向けてー

第 51 回大会（京都大会）実行委員長  
亀口 公一（アジール心理発達相談室）

本学会は、1964 年 6 月 28 日に設立総会が開かれ、日本で最初の臨床心理学の学会として誕生しました。その翌年（1965 年）の第 1 回大会は、京都女子大学で開催されました。参加者は、関西の心理臨床家や教育・応用等の心理学研究者を中心に 978 名だったそうです。初代会長の戸川行男は、1965 年の「月刊クリニカルサイコロジスト」創刊号で「臨床心理学会はできたが、臨床心理学がどんなものかわからないのは悲しい」と、学会の創立期から「臨床心理学とは何か」を問いかけています。

「臨床心理学」の歴史は、今田恵（1962 年）の『心理学史』によれば、早くも 1896 年（明治 29 年）にドイツから帰国した実験心理学者ウィトマーが、ペンシルヴェニア大学に「Psychological Clinic」（心理相談所、心理診療所、児童相談所等、複数の日本語訳あり）を開設し、児童研究やテスト開発による教育への応用から始まったとされています。そのウィトマーの最初のケースが、チャールズ・ギルマン（仮名）という知的障害がない読み書きのできない 14 歳の少年だったそうです。「Clinical Psychology（臨床心理学）」の用語をはじめて用いたのもウィトマーです。

もうひとつの「臨床心理学」の大きな流れとしては、欧米では、二つの世界大戦による戦争神経症の急増もあり、精神医学、心理学、精神分析学が共同することによりさらに発展したとされています。

しかし、日本における臨床心理学の歴史は、本学会の歴史に見られるように、欧米の臨床心理学とはかなり異なり、独自の歩みをしてきたものと思われます。本学会はこの半世紀で、1971 年の学会改革と 1991 年横浜大会での心理職の国家資格化をめぐる路線問題という二度の大きな荒波を乗り越えてきました。

その一方で、日本では精神障害で苦しむ人だけではなく、不登校で生きづらい子どもや家族的／社会的暴力によって「語れない」子どもたち、さらに発達障害や社会的引きこもりで苦しむ思春期／青年期の人たちが増加し、心理援助を必要としている人たちが後を絶ちません。

本年度の第 51 回大会は、第 1 回大会から 50 年の歳月が流れ、京都大学の総合人間学部棟で開催されることになりました。そこで、今大会のテーマを「臨床心理学の可能性と課題 一次の半世紀に向けてー」としました。本学会がこれまで取り組んできた臨床心理学的課題は、大きく次の 3 つの分野（①子ども臨床心理、②おとな臨床心理、③発達・性に関する臨

床心理)になると思います。今回、2日目午前の分科会は、そのすべての分野領域(臨床現場)に取り組むこととし、分科会Ⅰ(教育領域)、分科会Ⅱ(精神保健領域)、分科会Ⅲ(発達・性領域)の構成としました。さらに、2日目午後の講演会では、長年、本学会を見守っていただいている発達心理学者の浜田寿美男さんに「心理学は子どもの希望を語ることができるか」をテーマにお話しいただきます。また、大会終了後に今大会を学会再生の出発点とするためにも、今後の多様な交流の契機になるように「ミニコンサート付き懇親会」を企画しました。

日本臨床心理学会は、今こそ「真の臨床心理学」を追究する臨床実践とともに学的努力が求められ、その社会的責任が問われています。本大会が専門家と当事者が対等な立場で議論し合う場になることを願っています。

最後に、京大での大会開催にあたり仲介の労を取っていただいた総合人間学部の杉万教授に感謝するとともに、会員・非会員・当事者を問わずに多くの関心のある方々のご参加をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

## 第51回日本臨床心理学会大会(京都大会)

日時	2015年9月4日(金) 5日(土)		
会場	京都大学 総合人間学部棟 1階、地階(京都市左京区吉田二本松町)		
参加費	会員	3,000円	
	非会員	4,000円	
	当事者・家族・学生	1,000円	
	講演会のみ	1,000円	
	懇親会	3,000円	

9月4日(金)		9月5日(土)		
		9:00	受付	
		10:00	分科会Ⅰ(教育) 共に生きるインクルーシブ教育に向けて	分科会Ⅱ(精神保健) 薬にたよる? たよらない? 分科会Ⅲ(発達・性) 当事者が語る 「発達違和感」に学ぶ
		12:00	受付	
13:00	個別発表	13:00	一心理支援の役割とは一	一発達支援の役割とは一
15:00		14:00	昼食・休憩	
15:30	定期総会 ・事業報告 ・予算、決算 ・役員改選	15:30	全体会挨拶 講演会 演題 「心理学は子どもの希望を語ることができるか」 演者 浜田寿美男さん(奈良女子大学名誉教授)	
18:30		15:40	講演を受けて質疑応答	
		16:30	閉会挨拶	
		17:00	懇親会/ミニコンサート	
		19:30	(京大カフェレストラン)	

## <分科会の概要>

### 分科会Ⅰ(教育領域)

#### 共に生きるインクルーシヴ教育に向けて－心理支援の役割とは－

本学会は、長年「共に生き、共に学ぶ」立場から心理テストが持っている差別・選別の役割を問い続けてきました。特に、「障害」概念が大きく変容する今日状況の中で、国が進めている特別支援教育のあり方が、障害者権利条約でいうインクルーシヴ教育の概念と同じなのかを再点検する必要性が迫られています。当日は、京都におけるインクルーシヴ教育の現状を含めて討議を深めたいと思います。

シンポジスト：きょうと教組、京都ダウン症児を育てる親の会トライアングル、インクルーシヴ（共生）教育研究所、子ども社会臨床研究会、京都インクルーシヴ教育を考える会の5団体で、検討中です。

### 分科会Ⅱ(精神保健領域)

#### 「薬にたよる？たよらない？－心理職に求められる支援のあり方－」

「出来るだけ薬を飲みたくない」「薬を飲むと眠くなるから飲みたくない」というユーザーの声をよく耳にします。一方ユーザーから「幻聴が聞こえるようだ」と言われると、「お薬は飲んでいるの？」と薬さえ飲んでいれば心配ないとする傾向もあります。精神科では、一日に何十錠もの薬を処方する多剤処方が中心となっています。

近年、うつ病への認知行動療法が奨励されるなど、薬物治療以外の治療も少しずつ試みられています。また、ハーム・リダクションといった「減薬」「断薬」の方法も紹介されています。本分科会では、薬に依存しない治療或いは対処について医師、心理職、ユーザーの立場からの発題を頂き、その後参加者と意見交換を予定しています。

### 分科会Ⅲ(発達・性領域)

#### 当事者が語る「発達違和感」に学ぶ－発達支援の役割とは－

「発達障害」とよばれる人たちは、子どもの頃から対人関係において他者との違和感を持ちながら成長しています。彼／彼女たちは「変わりゆく能力と変わらない自分らしさの権利」が同時に尊重されなければ、とても生きづらい人生を送らなければなりません。彼／彼女たちに「発達違和感」をインタビュー形式で語ってもらい、発達支援のあり方を共に考え合っていきたいと思います。

シンポジスト：当事者3人（予定） インタビュアー：2人

## <懇親会／ミニコンサート>

日時 9月5日 17:00～19:30

会場 京大カフェレストラン「カンフォーレ」（吉田キャンパス正門前）

会費 3,000円

## <個別発表>

9月4日の個別発表を希望される方は、別紙の個別発表申込用紙と1000字程度に纏めた個別発表要旨原稿を、2015年7月17日（金）必着で、学会事務局までメール、もしくは郵送かファックスでお送り下さい。なお、発表は会員に限ります。

\*\*\*\*\*

## ヒアリング・ヴォイシズ京都ワークショップのご案内

日時：2015年7月25日（土） 14:00～17:00

場所：京都大学 総合人間学部棟1階 1103 講義室

参加費：会員 500 円 非会員 1,000 円 当事者・家族・学生 500 円

主催：日本臨床心理学会

共催：ヒアリング・ヴォイシズ研究会

日本臨床心理学会では、ヒアリング・ヴォイシズ（以下HV）を日本に紹介し、2000年の岡山大会では、HVの中心的存在の、マリウス・ロームさん、サンドラ・エッシャーさん、ロン・コールマンさんを招いての講演会を開催しました。その後、2002年の横浜での世界精神保健大会の折に、マリウス・ロームさん、フィル・トーマスさんの講演会を開催し、2010年には学会編の「幻聴の世界」を中央法規出版社より出版するなどしてきました。今回は、本学会が第51回大会のプレ企画として、ヒアリング・ヴォイシズ研究会と共に、京都でHVのワークショップを上記の日程で開催します。

HVでは、「幻聴」は、誰でも聞くことがあり、「幻聴」があることイコール精神疾患の症状ではないととらえています。薬で「幻聴」を抑えるという方法だけにとらわれることなく、「幻聴」によって生活を支配されないようにする、或いは「幻聴」を受容して、より自分らしい生き方を模索する方法を、ヴォイスヒアラー（声が聞こえる人）と一緒に考え探っていきます。現在は、ヒアリング・ヴォイシズ研究会が、岡山、大阪、東京の3か所で、ヴォイスヒアラーと一緒に考える例会を実施しています。なおHVでは、「幻聴」体験者の体験をありのままに尊重する意味から、「幻」の文字をはずし「聴声」とか「ヴォイス・ヒアリング」と呼称しています。

今回のワークショップでは、HVを日本に紹介した佐藤和喜雄さんに、HVの基本的考え方と「幻聴」への対処方法を中心にHVの概要を解説して頂き、その後、岡山、大阪、東京の3か所で行われているHVの定例会での活動内容を報告してもらいます。また、HV定例会に参加しているヴォイスヒアラーの人からも体験や定例会の感想などを語って頂く予定です。

### <会場案内図>



# 個別発表申込用紙

## 第51回日本臨床心理学会大会（京都大会）

個別発表者氏名：			
所 属：			
発表者住所：〒			
電 話：		ファクシミリ：	
E-mail：			
タイトル：			
備 考（連名者の有無など）：			
使用機器：パワーポイント・OHP・ビデオ(DVD,CD 等)・スライド（使用するものに ○ を付けて下さい）			
その他（ ）			
運営委員会記入欄			
受付月日：            年            月            日			
採    否：			
備    考：			

※ 申込先

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内

日本臨床心理学会事務局 FAX：03-5307-119 mail:nichirinshin@univcoop.or.jp

※ 別添として 1000 字程度に纏めた個別発表要旨原稿を、2015 年 7 月 10 日（日）必着で、学会事務局までメール、もしくは郵送かファックスでお送り下さい。

\*\*\*\*\*

## 第22期学会運営委員選挙に関する公示

2015年度日本臨床心理学会定期総会（2015年9月4日開催）において、第22期学会運営委員の決定ならびに監事の選出を行います。運営委員の任期は、定期総会役員改選承認後より2年後に行われる定期総会役員改選時までです。学会会則第13条に基づき以下の手順で運営委員立候補の受付を行いますので、立候補希望者は応募して下さい。

※運営委員に立候補する方は、  
氏名・所属・立候補理由と所信表明文（600字以内）を、  
2015年7月28日（火）までに、

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22  
大学生協学会支援センター内  
日本臨床心理学会事務局気付「学会選挙管理委員会」  
に郵送またはデータを nichirinshin@univcoop.or.jp に送付して下さい。

※氏名・所属・立候補理由と所信表明は、8月発行の「臨床心理学研究」第53巻1号に掲載して送付し、合わせて学会ホームページ等にて公告します。これに基づいて、新運営委員が選出されます。

2015年6月1日

日本臨床心理学会選挙管理委員会  
佐藤 和喜雄

参考：日本臨床心理学会会則

第12条（運営委員）運営委員は、運営委員会を構成し、本学会の事業運営の責任を負う。

第13条（運営委員の決定、定数）運営委員は本学会員が、自主的に立候補し、同時に立候補理由を表明し、総会において運営委員の任務を遂行する意志を相互理解するため討論をつくしたのちに、総会参加者の2分の1以上の信任を必要とする。なお、原則として、立候補表明は、総会に先んじる一定期間内に運営委員会が委任する選挙管理委員会あて文書で行う。

選挙管理委員会は、それを機関誌、紙上で会員に周知徹底させる。定数は特にこれを定めない。

第14条（監事）監事は会員の中から総会時に選出され、総会で承認される。監事は運営委員を兼ねることが出来ないが、運営委員会に参加し、意見を述べるができる。監事は本学会の会務を監査する。

第15条（役員の任期）役員の任期は2年間とする。但し、重任をさまたげない。